

## 令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第2学年 国語 211人 社会 210人 数学 211人

理科 211人 英語 211人

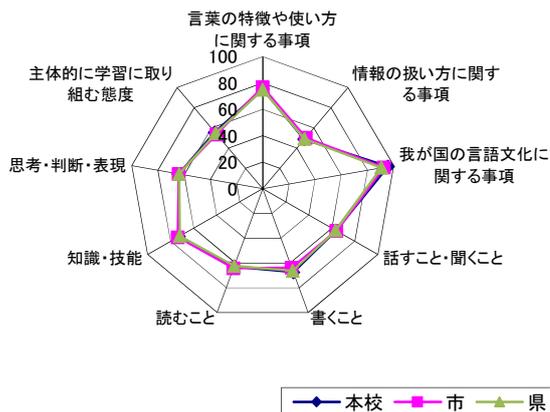
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.5	76.9	74.9
	情報の扱い方にに関する事項	48.8	50.3	49.2
	我が国の言語文化にに関する事項	95.7	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	63.5	64.2	63.4
	書くこと	67.4	63.7	66.4
	読むこと	62.8	64.2	62.5
観点	知識・技能	72.7	73.7	71.9
	思考・判断・表現	64.2	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	55.8	53.8	54.8



## ★指導の工夫と改善

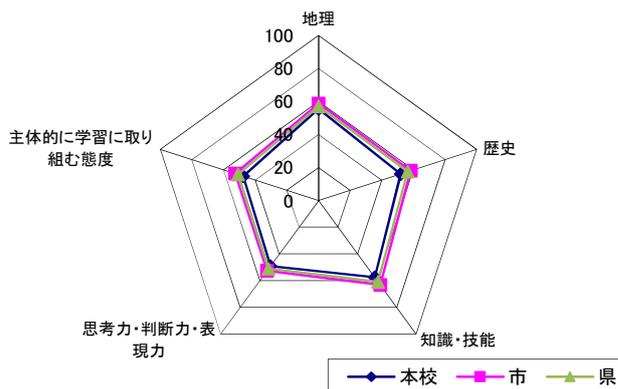
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○小学校の既習漢字である「敬う」を書く問題では、県の正答率の平均を14ポイント上回っている。 ●「半径」「才能」の書き・「渡航」読みといった熟語の読み書き、文節の関係についての正答率が低く、全体的には市の平均を1.4ポイント下回っている。	・小学校の既習漢字や1学年下の配当漢字の読み書きの復習を含め、学年配当の漢字を継続的に学習し、確認テストを行う。また、授業だけでなく、日頃の生活においても、漢字を正確に書かせる指導を継続していくことで定着を図っていく。 ・文節の関係について理解していない生徒が半数なので、授業において復習する時間を設けるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	●市の正答率を1.5ポイント、県の正答率を0.4ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、自分の考えが明確になるように、話の構成を考える問題では、県の正答率を0.3ポイント下回る40.3だった。	・原因と結果、意見と根拠、具体と抽象と情報との関係を捉えることで、話や文章の内容を正確に理解できるよう、確認しながら授業を進める。 ・自分のもつ情報と情報との関係を明確にして、話や文章で様々な表し方ができるよう、機を捉えて指導する。
我が国の言語文化にに関する事項	○県の正答率を5ポイント上回っている。 ○「あのしし」「かへる」といった歴史的仮名遣いについて非常によく理解しており、正答率は県の平均を5ポイント上回る97.5だった。	・日頃の音読指導、古文・漢文の暗唱テストが功を奏したと思われる。今後も正しく歴史的仮名遣いを読めるようにすることで、作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しませたい。
話すこと・聞くこと	○県の正答率を0.8ポイント上回っているが、市の正答率を0.7ポイント下回っている。 ○自分の考えや根拠が明確になるように話の構成を考え、相手の反応を踏まえながら表現を工夫することができる。 ●話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考える問題の正答率が36.0と低い。	・相手に分かりやすく伝えるために、言葉選びだけでなく、構成を考えてまとめさせる。また、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えられるような活動を継続して行いたい。 ・音声教材を使った聞き取りの練習を継続して行うことで、話の趣旨を正確に聞き取る力をつけさせる。また、授業の中で先生の話や級友の意見を聞きながら、メモを取る訓練を行いたい。
書くこと	○市の正答率を3.7ポイント、県の正答率を1.0ポイント上回っている。 ○読み取った内容を明確にして書く問題では、県の正答率よりも6.2ポイント高い69.2だった。 ●無回答率が17.2ポイントと高い。	・意見文についての必要な知識はある程度身に付いているが、資料を読み解き自分の考えを具体的に書くことに苦手意識をもつ生徒が多い。新聞の投稿文などを用いて、その優れた文章構成や表現方法を学ばせ、自分の文章表現に役立てる指導、目的意識・相手意識の両方を意識した作文が書ける指導を継続して行いたい。
読むこと	○県の正答率を0.3ポイント上回っているが、市の正答率を1.4ポイント下回っている。 ○説明的文章においては叙述を基に、登場人物の心情においては描写を基に内容を捉えることができる。 ●文章の構成や展開について根拠を明確にして考える問題では、県の正答率を3.5ポイント上回ったものの、44.1と低い。	・朝の読書や司書によるブックトーク等を通じて、今後も多彩で質の高い文学作品に触れさせる機会を設けたい。 ・筆者の主張とそれを支える根拠(論証)を意識して説明的文章を読むことや、登場人物の言動の意味を考えて文学的文章を読むことができるようにしていく。

# 宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	55.5	58.7	57.0
	歴史	52.0	58.3	56.4
観点	知識・技能	57.5	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	49.1	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	47.6	52.6	50.8



## ★指導の工夫と改善

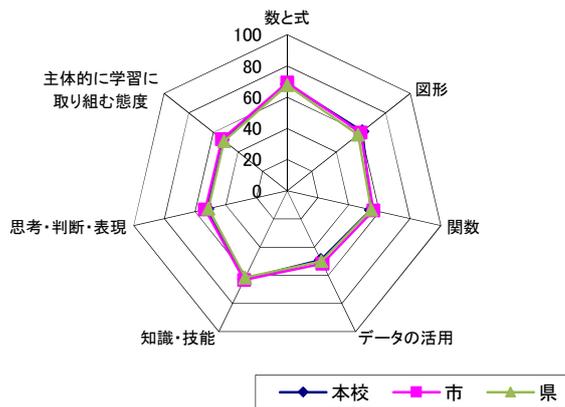
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○日本の国土や排他的経済水域について、本校の正答率は県に比べて5.7ポイント高い。</p> <p>○世界の気候と雨温図に関して、本校の正答率は、県と比べて6.7ポイント高い。</p> <p>○アジア州の農業について、本校の正答率は県と比べて、9.5ポイント高い。</p> <p>●地理分野は市と比べて3.2ポイント、県と比べて1.5ポイント正答率が低い。</p> <p>●世界の国旗について、正答率が県より8.7ポイント低い。</p> <p>●アフリカのモノカルチャー経済について県と比べて5.8ポイント低い。</p> <p>●アメリカの人種と産業について、県と比べて8.9ポイント低い。</p> <p>●オセアニア州の気候と農業について、県と比べて7.3ポイント低い。</p>	<p>・世界の諸地域について知識の定着が図れているが、グラフや写真資料から適切な情報を探し出して分析する力や自分の考えをまとめて表現する力が弱い。そのため知識の定着も長続きがしない。今後、資料を読み取る活動や自分の考えをまとめる学習活動を授業に取り入れていきたい。</p>
歴史	<p>○多少のポイントは下回っているものの、多くの問題で県との平均と同じくらいの正答率だった。</p> <p>●歴史分野は市と比べて6.3ポイント、県と比べて4.4ポイント正答率が低い。</p> <p>●時代区分について、県と比べて5.3ポイント低い。</p> <p>●卑弥呼への理解は県と比べて11.4ポイント低い。</p> <p>●元寇について県と比べて8.4ポイント低い。</p>	<p>・歴史分野の各問題の正答率を見ても、知識・技能の観点で市、県より低い。基本的な用語の定着を授業の中で進めていく必要がある。</p> <p>・基本事項の定着を図るとともに、資料から読み取る問題が弱いので引き続き、授業の内容でも資料問題を取り入れていきたい。</p>

# 宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	68.3	69.3	67.7
	図形	61.2	59.8	57.7
	関数	54.5	56.2	54.7
	データの活用	49.1	51.6	49.9
観点	知識・技能	62.6	63.2	61.5
	思考・判断・表現	52.1	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	52.5	53.0	51.2



## ★指導の工夫と改善

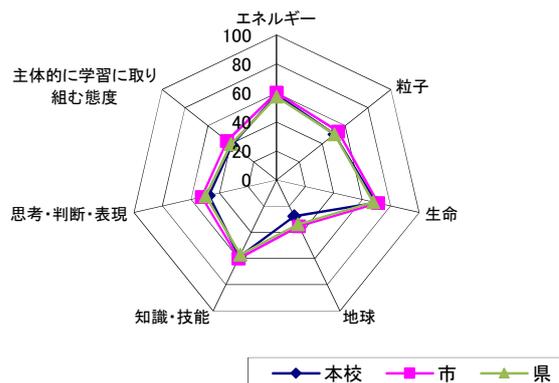
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県の正答率より0.6ポイント上回っている。</li> <li>○12問中11問で無回答が、県や市よりも少ない。</li> <li>○「負の数の大小関係」に関しては、県よりも5ポイント以上上回っており、無回答が0であった。</li> <li>●市の正答率より1.0ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率度数分布を見てみると、県と市ではほぼ同じで高得点の山は70～80%に対して、本校は80～90%であるのにも関わらず、県と市の低得点の山は40～50%に対して、本校は30～40%である。30～40%の正答率の生徒の底上げができるように、基礎基本の徹底を授業でも家庭でもはかっていく。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県の正答率より3.5ポイント、市の正答率より1.4ポイント上回っている。</li> <li>○「対称の軸」と「ねじれの位置」と「作図」と「示された関係を説明すること」に関しては、県の正答率より5ポイント以上上回っている。</li> <li>●「球の表面積」に関しては無回答率が県や市より低いにも関わらず、正答率が5ポイント以上下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解答形式が、選択や短答であると市の正答率を下回るものもあるが、記述に関しては上回っているため、これからも学び合いを継続して行っていく。</li> <li>・球の表面積を求める式が無回答率が低いにも関わらず体積の式を選択している率が高いため、再度区別ができるように復習を行う。</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「2つの文字の変化の関係」に関しては、県の正答率より、5ポイント以上上回っている。</li> <li>○「比例のグラフを書くこと」に関しては、県の正答率より5ポイント以上上回るだけでなく、無回答も大変少ない。</li> <li>●正答率が県より0.2ポイント、市より1.7ポイント低い。</li> <li>●「比例の式」「正しい関係を示したグラフの選択」に関して、県の正答率より5ポイント以上下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1次関数の学習の際に、比例・反比例と関連付けて関数について深い学びができるようにする。特に比例の式に関しては、比例定数の求め方が変数の割り算であることは理解しているがどちらを割るのかに関して逆になっている生徒が多いため、再確認をする。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正答率が県より0.8ポイント、市より2.5ポイント下回っている。</li> <li>●「相対度数を求めること」に関して、県の正答率より5ポイント以上下回っている。</li> <li>●無回答率が全体的に県よりも多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元末テスト結果の返却時に、実際のテスト結果データから相対度数を求めてみたり、分布の読み取りをしたりなど、まずは身近な教材から興味をひきだして知識の定着をはかりたい。</li> </ul>

# 宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	58.9	60.3	57.4
	粒子	50.6	53.8	50.7
	生命	69.9	71.2	67.8
	地球	27.6	35.3	33.8
観点	知識・技能	58.4	59.9	57.0
	思考・判断・表現	47.5	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	38.9	43.3	39.8



## ★指導の工夫と改善

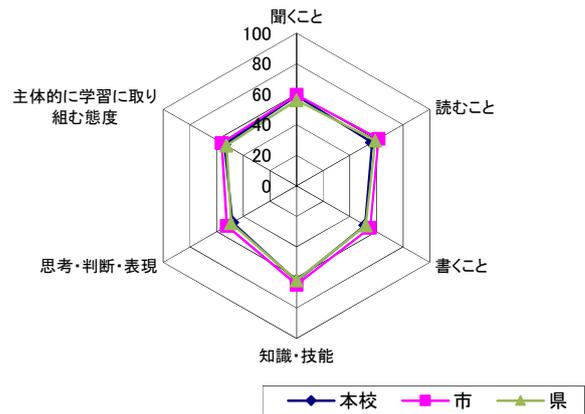
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○県の平均より1.5ポイント上回っていた。</p> <p>○「おもりがばねを引く力について理解している。」では県の平均より15.8ポイント上回っていた。</p> <p>●市の平均より1.4ポイント下回っていた。</p> <p>●「虹のような帯が見える現象が光の屈折に関係する現象であることを理解している。」では県の平均より5.8ポイント下回っていた。</p>	<p>・ホースで水をまいて実際に虹を見せたり、ビーカーに入れた水を高いところから落としたり、動画や画像を用いたりして、考えるための情報を提供する。</p>
粒子	<p>●市の平均より3.2ポイント、県の平均より0.1ポイント下回っていた。</p> <p>●「表とグラフから、加熱した水の状態を指摘できる。」では県の平均より7.1ポイント下回っていた。</p> <p>●「水素の性質の知識を適用して、水素自動車は、水を排出することを指摘できる。」では県の平均より3.2ポイント下回っていた。</p>	<p>・融点と沸点について復習し、物質の量に関係なく、物質の種類によって決まっていることを具体例をあげながら説明する。</p> <p>・今までに学習した気体の性質や発生・捕集方法を表などに整理させる。</p>
生命	<p>○県の平均より2.1ポイント上回っていた。</p> <p>○「タコとアサリは軟体動物に、クラゲはそれ以外の無セキツイ動物に分類されることを理解している。」では県の平均より9.9ポイント上回っていた。</p> <p>○「ビワの花のつくりから、ビワの実が花のどの部分に由来するかを指摘できる。」では県の平均より7.7ポイント上回っていた。</p> <p>●市の平均より1.3ポイント下回っていた。</p>	<p>・身近な植物、動物についての観察を通して、生物の調べ方の基礎を学習するとともに、生物の体のつくりの特徴を理解させ、共通点や相違点、多様性に気づかせ、生物の世界についての総合的な認識を深める。</p>
地球	<p>●市の平均より7.7ポイント、県の平均より6.2ポイント下回っていた。</p> <p>●「ある地点の初期微動継続時間を推測できる。」では県の平均より13.5ポイント下回っていた。</p> <p>●「火山灰の鉱物の割合から、その火山の特徴を指摘できる。」では県の平均より9.5ポイント下回っていた。</p>	<p>・初期微動継続時間の定義、初期微動継続時間とP波・S波の関係を理解させてから取り組ませる。</p> <p>・さまざまな火成岩を比べて、鉱物の種類、大きさ、集まり方に着目して記録し、違いや共通点がわかるように整理させる。</p>

# 宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	58.9	59.6	56.1
	読むこと	56.7	61.6	59.1
	書くこと	51.6	55.2	51.9
観点	知識・技能	62.3	64.7	61.9
	思考・判断・表現	47.9	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	54.1	56.1	52.5



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○本校の正答率は、県の平均より2.8ポイント上回っており、特に絵を適切に表している英文を聞き取る状況把握の問題に優れている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も英語でのやりとりを中心とした授業展開を心がけ、授業の中で英語を聞くこと、話すことができる機会を多く設ける。</li> <li>・ALTを効果的に活用し、生徒たちが英語でコミュニケーションをとろうとする意欲を喚起させる場面を設定する授業を行う。</li> <li>・リスニング用の教材をを定期的に活用し、まとまりのある英文に慣れさせる。(dictationも含む)</li> </ul>
読むこと	●本校の正答率は、県の平均よりも2.4ポイント下回っている。語形、語法を理解し、まとまった文章から必要な情報を読み取ったり、指示語の内容を理解する力に優れている生徒と、そうでない生徒の差が大きい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語形、語法の知識を理解させ、定着させるよう引き続き指導していく。</li> <li>・苦手意識の強い生徒は特に長文を読もうとしない生徒も多いので、日頃から教科書や短めのまとまった文章を読ませる。また、Q&amp;AやTF問題などを取り入れ、まず大まかな内容を把握する演習を行う。</li> </ul>
書くこと	○対話の流れに合った英文を書いたり、与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を書く問題が、県の正答率よりも5ポイント以上上回っている。 ●本校の正答率は、県の平均よりも0.3ポイント下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して単語や連語、基本表現を繰り返し練習させ、定期的に確認テストを行う。</li> <li>・場面設定を明確にし、基本表現を使って身近なことを表現できる力を定着させる。</li> </ul>

## 宇都宮市立宮の原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の宿題をしている」と肯定的回答をした生徒の割合が78.2%と市よりも2.5ポイント高い。また「家で、テストで間違えた問題について勉強している」と肯定的回答をした生徒の割合が73.5%と市よりも4.6ポイント高い。「1日当たりどのくらいの時間勉強しますか」「1時間以上と回答をした生徒の割合が73.5%と市よりも3.7ポイント高い。毎日の細かな担任等からの指導により家庭学習が習慣化している。

●「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答の割合が69.3%に対し市や県の平均と比べて11ポイント下回っている。が、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」と肯定的回答の割合が92.5%と市より30ポイント上回った。授業のねらい内容を明確化し、学習内容を理解するとともに定着させるために授業の振り返りの時間を確保するように努めていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した生徒の割合が72.2%と市の平均より10.6ポイント県より14.8ポイント高い。話し合い活動の中で、自分の考えを文章にまとめて説明させる機会を多く設定していく。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と肯定的回答をした生徒が73.4%で、市の平均より12.7ポイント高い。学級活動・各教科・生徒会活動等の様々な場面を通して生徒の頑張りを認め、自己肯定感をさらに高めていきたい。

●ふだん(月～金曜日)、1日当たりのテレビ等の視聴時間2時間より少ないは、47.8%で市の平均より2.1ポイント高い。携帯電話・メール・インターネットの時間30分より少ない34.6%で市と比べて5.4ポイント上回っている。テレビゲーム(コンピュータゲーム・携帯式ゲーム携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)では、2時間～4時間使っているが、34.2%と高く、学校・学年便りや保護者会等で保護者への啓発活動を行い、さらに協力を求めていきたい。

○「家の人と学校のできごと・将来のことについて話をしていることがある」と肯定的回答をした生徒は、市や県の平均より高い。今後も生徒たちの可能性を最大限引き出していけるよう、家庭と協力して指導に努めていきたい。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のねらいの明確化</li> <li>・学業指導の充実</li> <li>・家庭学習の習慣化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらい提示と振り返りを行う。</li> <li>・チャイム前着席や態度の指導を行う。</li> <li>・課題の提出を徹底させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の明確化は、概ね徹底できている。</li> <li>・落ち着いて、授業に集中して学習することができている。</li> <li>・家庭学習の習慣は、定着しつつある。</li> </ul>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動は比較的良くできているが、文章に書いてまとめることが課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動の中で、自分の考えを文章にまとめて説明させる機会を多く設定していく。</li> </ul>